



6月号

自然素材の安心・健康リフォーム エコバウ・リフォーム

エコロジー & 建築生物学

シックハウス症候群に取り組む医師 青山美子さんに聞く

エコバウ・インタビュー

ほんとうの健康住宅を考えるー



熱心に話される青山先生



一見病院と見えない青山医院

Q 医師の立場からシックハウス問題をどうお考えですか。

私から見ればシックハウスは枝葉に当たる問題です。もっと大きなこと地球規模の環境、地域の環境というレベルで今非常に心配しています。化学物質で起こる環境汚染、これを真剣に考えています。この間全国のシックハウスの患者さん 36 人が私の病院に集まりました。私のところなら安心してこれられるといえます。患者さんが集まれる場所がない。自分たちの地域の病院に行けないのです。

Q なぜ病院に行けないのですか。

病院は床にワックスを塗り、薬品を使い清掃し、消毒し農薬でノミやダニを駆除します。何種類の化学物質を使っていると思いますか。病院に限らずコンビニやスーパーなど人の集まる場所は大量の化学物質で抗菌、脱臭、消毒しているでしょう。自分は大丈夫と思っている人でも身の回りの化学物質から出ているガスを少しずつ体内に溜め込んでいきます。ほんとうに怖いのは目に見えるものではなく見えないものが怖いのです。

Q 学校では有機リン系の農薬が問題と。

校庭で桜やハナミズキが綺麗な花を咲かせますが前年に有機リン系の農薬を噴霧します。雑草があれば野球やサッカーができないと揮発性の農薬を撒きます。そのたびに子供はガスを吸い中には発熱、頭痛、喘息になる子もいます。

毛虫がイヤだったら消毒せず高枝切り鋏で枝を落としたり、草むしりは朝礼の後生徒みんなまで 10 分もやれば綺麗になるでしょう。30 年前はそうしてました。それが本当の教育ではないですか。便利だから薬品や化学物質を安易に使えば知らないうちにたくさんの化学物質に囲まれることになります。私が環境や地域の問題で最も知ってほしいのはこれだけ大量に化学物質を使っている国は先進国で日本だけだということです。この 20 年で精神に異常をきたして起こした犯罪、精神病の発生率、犯罪だけでなくひきこもりや登校拒否の子がいっぱい増えてしまった。これは有機リンが主因と考えます。有機リンは肺から入って脳に行ってしまう。他のものに比べ毒性が強く元に戻らない。有機リンは非常に深刻な問題です。

Q ひきこもりや登校拒否が関係しているのですか。

大いに関係しています。今まで解毒剤をうって何人も子供を治療しています。



シックハウスの人のための待合室

「シックハウス」は枝葉。環境汚染に目を向けよう

先ほど話した有機リン系の毒性は脳まで回ってしまうので、体だけではなく心も蝕んでいくのです。人間の脳や体だけではありません。環境異常、土壌汚染、水質汚染、大気汚染、酸性雨みんな化学物質が原因です。特にシロアリ駆除剤のクロルピリホスは一度散布したら毒性を含む空気が室内に流れ込み、吸い込むことは血管に直接注入するぐらい危険があります。農薬も空中散布は大気を汚染し最も危険です。都心よりも田舎のこのの方が子供の被害件数が圧倒的に多いことが空中散布の危険性を証明しています。(青山医院は前橋にあります)

Q 子供や赤ちゃんがあぶないと。

そのような環境で赤ちゃんや子供たちが育っています。赤ちゃんを妊娠する。赤ちゃんが育つのは羊水の中です。昔は太古の海と言われた羊水は今お母さんの肺から吸収された化学物質で現実の海より何十倍も汚染されています。赤ちゃんは1ヶ月でアトピー性皮膚炎、1~3歳で喘息に移行し、4~6歳でさらに化学物質過敏症になる子供もいます。本人が気が付けばいい問題ではありません。私の取り組んでいる「環境」とはそういうレベルの問題なんです。今年イギリスやヨーロッパでは一斉に農薬など260もの化学物質の使用を禁止しました。日本ではまだ建築基準法が改正になりホルムアルデヒドとクロルピリホスがやっと規制されたレベルです。それも建築物だけで同じ家の中にある家具などは、全く規制がない状態です。

農薬を抜いたあとの植物は空気清浄機の替わりになる。



昔の工法や知恵生かす

青山美子さんの略歴

青山医院院長(専門は内科・小児科・アレルギー科・化学物質過敏症専門外来あり)
農薬や化学物質が原因で引き起こすアレルギー症状に着目し北里大学石川哲先生、横浜国立大学の花井義道先生と共に長年にわたり研究を続けている。



院内には20台の空気清浄機。患者さんからもらう観葉植物も1年間農薬を外で放散させてから院内で使う徹底ぶりだ。

日本という国は「安全」と立証されてから使うのが本当なのに「予防」をしない。使ってみて危険と判ってそれから使うのを止める国です。危険だとわかるのに何十年も掛かることもあるのに、それまで規制しない。逆なのです。

Q 医師として建築関係者に望むことは何ですか。

昔からある材料や昔ながらの大工さんの工法をもう一度見直して現代科学と伝統の融合を図りながら工夫して作ってほしいことです。幸いこの頃はローコストや見てくれよりも環境や生命の安全が大切だと言う時代に少しずつ変わってきました。ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、有機リンなどが含まれる建材は使わないことです。そして、エコだ、オーガニックだ、体に優しいなど書いてあっても絶対に信用してはだめ。自分で試し、自分で考え、確認して使う。先ず疑うことから始めてください。それから抗菌グッズは絶対使わないで下さい。これからは建築屋さんも化学の知識を身につけてほしいです。



毎日新聞の記事(2005.5.20朝刊、毎日新聞科学環境部・下桐実雅子筆)

岩手県水沢市で5歳と5ヶ月の男児2人が死んでいるのが見つかった。32歳の母親が無理心中を図ったとみられ、子供2人のアトピー性皮膚炎で悩み夜も眠れない状態だったという。(中略)私の場合4歳の長女と1歳の長男がアトピーだ。植物アレルギーの専門医にみせたら穀物アレルギーの疑いと診断された。牛乳、米、小麦、加工食品を除くよう指導されその後一進一退。長男は風邪をひくと喘息も出るようになった。「見えない相手と闘う」ためアレルギー・アトピー・ぜんそくとの付く公演、勉強会に出来る限り参加するとこの会場もベビーカーで子供連れの母親で一杯なのに驚いた。(中略)治療にまじめな親ほど追い込まれやすい。昨年も兵庫で長女(4)と母親(35)が大阪では長男(4)長女(10ヶ月)と父親(30)が子供のアトピーを苦しめた無理心中だった...このような現状をTVニュースは残念ながら伝えていない。